

看護学科4年次生が取り組んだ事例研究の看護学領域 － 学生の看護研究論文テーマからの調査 －

石塚 睦子¹⁾, 塩田 みどり¹⁾, 佐藤 みつ子¹⁾

了徳寺大学・健康科学部・看護学科¹⁾

要旨

看護学科では、開設年度の2014年度から2020年度まで、4年次の科目「看護研究(課題研究)」において卒業論文を課してきた。その内、2018年度を除く論文はすべて臨地実習での事例研究論文であった。2018年度のみ文献研究の計画書作成を課し、事例研究に取り組ませていない。

本論文では、開設年度の2014年度から2020年度までの卒業論文の内、2018年度を除く6年間の事例研究のテーマを洗い出し、学生が取り組んだ看護学領域における研究テーマの傾向を明らかにすることを目的とし、まとめたものである。

その結果、高齢者の看護分野が症例の約半分を占め、各看護領域のテーマのキーワードから、取り組んだ事例研究の主な疾患、症状、看護が明確となったので、報告する。

キーワード: 事例研究, テーマ, 看護学科, 4年生 看護学領域

Nursing areas of case studies by 4th year nursing students - A Survey on topics of the students' thesis -

Mutsuko Ishizuka¹⁾, Midori Shioda¹⁾, Mitsuko Sato¹⁾

Department of Nursing, Faculty of Health Sciences, Ryotokuji University¹⁾

Abstract

The Department of Nursing had required the fourth year nursing students to write a graduation thesis in the “Nursing Research (Subject Research)” from 2014 to 2020. Among them, all the papers except ones submitted in 2018 were about the case studies of the field practice. We assigned the fourth year students preparation of a plan for literature research and did not assigned the case studies in 2018.

In this report, we examined the theme of case studies in the graduation theses from 2014 to 2020 except for 2018, and described on the trends in the nursing field that students had worked on.

As a result, the nursing field of the elderly occupies about half of the cases, and from the keywords of each nursing area, the main diseases, symptoms, and nursing of the case studies tackled became clear, so we report.

Keywords : case study, theme, department of Nursing, fourth-year student, the field of nursing

I. はじめに

看護学科では、開設年度である2014年度から2020年度まで、4年次の科目「看護研究(課題研究)」において卒業論文を課してきた。その内、2018年度以外は、すべて臨地実習での事例研究論文に取り組んでいる。

2018年度のみ文献研究の計画書作成を課し、事例研究には取り組んでいない。本論文では、まず開設年度の2014年度から2020年度までの4年次の科目「看護研究(課題研究)」の卒業論文の内、2018年度を除く6年間の事例研究に絞った計595論文のテーマを洗い出し、学生が取り組んできた看護学領域における研究テーマの傾向を明らかにすることを目的とし、まとめたものである。

結果として、高齢者看護学領域の事例が最も多く約半数を占めており、各看護学領域別のキーワードから学生が取り組んだ主な疾患・症状・看護が明確となったので、ここに報告する。

Ⅱ. 研究目的

研究目的は、4年次の科目「看護研究(課題研究)」において提出された卒業時事例研究論文のテーマを洗い出し、学生が取り組んだ看護学領域における研究テーマの傾向を明らかにすることである。

Ⅲ. 研究方法

1. 研究対象

4年次の科目「看護研究(課題研究)」において提出された事例研究論文計595論文である。

2. データ収集期間と収集方法

2014年度から2020年度(2018年度を除く)までの事例研究論文のテーマを、看護学領域(基礎・成人・高齢者・小児・母性・精神・在宅看護学)毎に分類し、各領域のテーマのキーワードを分類・整理した。

3. 倫理的配慮

本研究の分析対象は、公開されている情報を基にしており、人を対象とした倫理的問題は生じないが、個人情報保護に基づき事例研究を行った学生の匿名性に配慮し、事例研究に係わった学生・教師の個別情報については分析に使用するデータから削除した。

Ⅳ. 看護研究(課題研究)の概要

4年次の科目『看護研究(課題研究)』の目的は、「看護研究概論で得た知識を活用し、臨地実習の事例をもとにしながら研究課題を絞り込み、先行研究の文献検索、検討をもとに研究計画案を作成して、事例研究論文をまとめることができる。」である。科目責任者による事例研究に関する講義の後、学生個々の計画書に基づき、4～5名の学生を1教員がゼミ形式で指導し、事例研究論文を完成させていく。

Ⅴ. 結果

2014年度から2020年度までの2018年度を除く6年間の事例研究595論文を、7領域の看護学に分けた結果、高齢者看護学に取り組んだものが最も多く48%、次いで成人看護学領域が29%、そして精神・小児・母性・基礎・在宅看護学の順であった(図1)。

次に看護学領域別にテーマのキーワードを抽出した結果を表2～8に示す。() 内の数は各キーワードの数である。

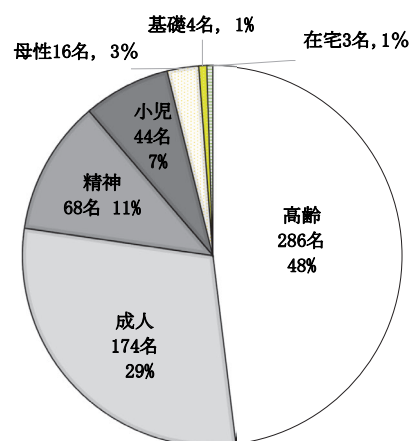


図1.4年生が取り組んだ事例研究の看護学領域

表2. 高齢者看護学における事例研究論文テーマのキーワード一覧表

認知症 (49)	自立歩行 (2)	ストレス緩和・リラックス (3)	心豊かな時間 (1)	良好な食事姿勢 (1)	スピリチュアルケア (1)	日々の言葉かけ、声掛け (2)
認知機能低下 (9)	ADL低下 (3)	不安・混乱状態 (1)	精神的安寧 (1)	食形態の工夫 (1)	疼痛 (2)	コミュニケーション困難 (3)
物忘れ (1)	全介助 (1)	孤独 (1)	患者の価値観、その人らしさ、個性 (2)	嚥下機能訓練・向上・嚥下体操 (5)	痛みの緩和 (1)	悲観的発言 (1)
BPSD (2)	体動への恐怖心 (1)	拒否 (2)	本人のペースの尊重 (1)	誤嚥しない食事介助 (1)	睡眠障害 (1)	クロースドクエスチョン (2)
認知機能 (1)	車いす移乗拒否 (1)	介護拒否 (1)	思いをくみ取る (2)	食事摂取量向上・摂取量10割 (2)	倦怠感 (1)	発語の乏しい患者 (1)
認知機能の改善 (1)	廃用症候群 (2)	昼夜逆転 (5)	患者の意思と同意 (1)	脱水症 (1)	糖尿病 (2)	言葉を発する (1)
ユマニチュード (3)	残存機能 (4)	日中覚醒を促すケア (1)	患者を知る (1)	飲水困難 (1)	インスリン自己注射 (1)	自発性 (1)
脳梗塞 (10)	潜在能力 (1)	日中の感覚刺激・効果 (1)	パーソナリティ (1)	飲水促進ケア・効果的飲水の援助 (2)	下肢血行不良 (1)	表現する力を引き出す (1)
脳梗塞の後遺症 (2)	できそうなADL (1)	生活リズム・改善 (3)	寄り添う (2)	トイレでの排泄 (9)	下肢浮腫 (2)	患者との相互作用 (1)
脳血管障害 (9)	ADLの自立・向上・拡大 (10)	見守り	関心を持つ (1)	排尿行動 (1)	フットケア (1)	家族を交えたコミュニケーション (1)
クモ膜下出血 (1)	活動性向上・拡大 (2)	機能訓練 (1)	表情・言動の分析 (1)	尿失禁 (4)	清潔保持・清潔ケア (2)	心を開く
多系統萎縮症 (2)	活動の過大評価 (1)	リハビリテーション (2)	患者の強み (1)	膀胱留置カテーテル挿入・感染 (2)	清拭 (3)	患者の本音、本音を引き出す (2)
脳腫瘍 (1)	危険行動 (2)	リハビリテーション意欲 (9)	感情表現 (1)	あきらめていた排泄行動 (1)	清潔ケア・入浴の拒否 (2)	共に過ごす
頭部外傷 (1)	安全・安楽 (1)	「自分でできます」を引き出す (1)	老衰で死ぬ権利 (1)	排尿・排泄の自立 (3)	シャワー浴の自立 (1)	コーンの危機・障害受容モデル (1)
麻痺・片麻痺 (6)	安全な入院生活 (1)	リハビリテーション意欲低下 (2)	健康への意識 (1)	排泄行動と衣類の選択 (1)	口腔内汚染 (1)	生活者 (1)
利き手の運動機能障害 (1)	事故リスク (1)	リハビリ拒否 (1)	誤嚥性肺炎 (10)	排泄リズム (1)	口腔ケア (3)	日常生活支援 (3)
拘縮 (6)	事故防止 (1)	早期リハビリテーションの効果 (1)	誤嚥性肺炎予防 (1)	自然排便 (1)	心地よい口腔ケア (1)	生活習慣 (1)
構音障害 (7)	転倒・転落、転倒・転落リスク (5)	リハビリと活動制限のバランス (1)	嚥下障害・誤嚥リスク (6)	下剤服用の常態化 (1)	口腔ケアと認知機能 (1)	生活習慣病 (1)
失語症 (4)	転倒の要因 (1)	リハビリの課題 (1)	不顕性誤嚥 (1)	腹部マッサージの効果 (1)	下肢の冷え	環境整備 (2)
感覚性失語症 (1)	転倒予防 (6)	背面開放座位 (1)	肺炎 (3)	ストーマ造設・受容 (2)	足浴・効果 (7)	振動 (1)
運動性失語症 (2)	転倒・転落予防 (1)	安楽な姿勢 (1)	間質性肺炎 (1)	仙骨部褥瘡 (2)	手浴 (2)	ナースコール (1)
ブローカー失語 (2)	危険性の意識 (1)	温タオルでの関節可動域訓練 (1)	慢性呼吸不全 (1)	褥瘡ケア (1)	温熱刺激 (1)	ナースコールを押さない患者 (1)
高次脳機能障害 (5)	身体抑制・拘束 (5)	レクリエーション (3)	COPD (1)	脆弱な皮膚・スキントピア (2)	マッサージ (2)	指導 (1)
意識障害 (1)	外傷予防 (1)	楽しみ (1)	呼吸困難感	皮膚トラブル (1)	タッチング、身体接触 (5)	家族指導 (1)
遷延性意識障害 (2)	抑制の身体的・精神的苦痛 (1)	セルフケア能力拡大 (2)	呼吸法の指導	ドライスキン・皮膚乾燥 (2)	タクティールケア (1)	パンフレット (1)
左半側空間無視 (1)	電動車いすと事故予防 (1)	セルフケア能力向上 (1)	スクイージング	掻痒感 (1)	貧血 (1)	社会復帰 (1)
傾眠傾向 (1)	安全と精神面を考慮した身体抑制 (1)	自己管理 (1)	痰吸引	スキンケア (2)	難聴 (1)	退院指導・支援 (6)
パーキンソン病 (6)	身体拘束のジレンマ (1)	成功体験、自己効力感 (3)	食事介助 (3)	保湿 (1)	視覚障害 (1)	退院後を見据えた関わり (1)
大腿骨骨折 (6)	身体拘束の減少 (1)	意識づけ (1)	食事を支える (1)	摩擦の軽減・外力軽減 (1)	心不全 (3)	退院後の問題 (1)
腰椎圧迫骨折 (2)	せん妄 (3)	行動変容 (4)	食べる力自分で食べる (2)	表皮剥離予防 (1)	大動脈解離 (1)	独居高齢者の退院指導 (1)
骨折 (1)	低活動型せん妄 (1)	意欲低下 (1)	食べたい・おいしい食事介助 (1)	除圧 (1)	腎不全 (2)	食事指導 (1)
脊柱後弯変形 (1)	術後せん妄 (1)	意欲と行動の解離 (1)	安全で楽しい食事 (1)	急性期 (1)	肝疾患 (1)	退院後の食事指導 (1)
コルセット装着の苦痛	不穏 (7)	自尊感情の低下・予防 (2)	食習慣 (1)	手術 (1)	腹水 (1)	身体的・精神的・社会的関わり
長期入院患者 (3)	せん妄の評価ツール (1)	闘病意欲・回復意欲 (3)	食事の影響 (1)	術後 (2)	封入体筋炎 (1)	看護師の役割 (2)
寝たきり高齢者 (4)	せん妄予防策 (1)	自信・意欲・能力を引き出す (8)	禁食 (1)	術後患者 (2)	信頼関係・関わり (10)	私たちに求められること (1)
臥床傾向・長期臥床長期安静 (10)	不安症状 (1)	モチベーションを高める関わり (1)	食欲不振・摂食意欲低下・拒絶 (5)	合併症予防 (1)	信頼関係の構築 (3)	感動を与える看護 (1)
活動量 (1)	言語化されない不安 (1)	生きがいの獲得 (2)	意欲的食事摂取 (2)	ボディイメージの障害 (1)	コミュニケーション (9)	看護観の振り返り (1)
筋力低下 (5)	入院による不安 (1)	個人の尊厳 (1)	嗅覚刺激と食事意欲 (1)	早期離床 (2)	コミュニケーション技法 (3)	看護学生の心理変化 (1)
下肢筋力低下 (1)	精神的ストレス (1)	QOLの尊重・向上 (5)	経口摂取困難 (1)	離床の認識 (1)	言語的コミュニケーション (2)	看護学生の影響 (1)
歩行困難・障害 (2)	入院によるストレス (2)	穏やかに過ごす (2)	異食 (1)	終末期 (3)	非言語的コミュニケーション (2)	

表3. 成人看護学における事例研究論文テーマのキーワード一覧表

慢性疾患 (2)	食事の自己管理 (2)	早期離床 (7)	易感染状態	疾病受容段階 (1)	アクティビティ	失声患者, 発声の再獲得 (2)
遺伝性慢性疾患 (1)	食事指導 (1)	術後早期離床を妨げる要因 (1)	感染予防 (6)	適応を促す看護 (1)	リハビリ意欲 (2)	意識障害
生活習慣病 (2)	早食いの改善 (1)	術後早期離床の促進, 効果的離床 (2)	感染予防行動 (2)	患者が心を開くとき (1)	ADL向上 (1)	半身麻痺の受容
生活習慣改善・再発予防・継続 (3)	体重管理 (1)	回復期	終末期 (4)	患者のペース (1)	自立への介入・向上 (2)	長期臥床, 長期臥床患者 (2)
糖尿病 (2)	運動の自己管理 (1)	早期回復	終末期患者 (2)	闘病意欲 (3)	自律性 (1)	筋力低下
2型糖尿病 (8)	習慣化 (1)	胃全摘術 (1)	終末期がん患者 (3)	意欲の向上 (1)	循環器疾患 (1)	環境整備の有効性
糖尿病患者・療養者 (11)	日常生活ケアの大切さ	胃癌術後 (1)	末期がん (3)	明るさを取り戻す (1)	大動脈弁狭窄症 (1)	食べることの喜び
再入院した糖尿病患者 (1)	退院指導 (10)	胃ポリープ術後 (1)	がん終末期患者 (1)	心理的影響 (1)	心筋梗塞 (1)	食事ができないことの影響
糖尿病神経障害 (1)	退院への不安, 生活不安 (2)	大腸全摘術, 大腸がん切除術後 (2)	ターミナル期 (4)	身体・心理状態 (1)	心不全 (4)	排泄行動自立
教育入院 (5)	安心できる退院指導 (3)	ストーマ造設人工肛門造設排泄経路の変更 (5)	死を迎える患者 (1)	心理的变化 (3)	慢性呼吸不全 (1)	清潔ケア
教育的介入・看護 (2)	患者の発言を活かしたパンフレット (1)	予定外のストーマ造設 (1)	納得いく最期 (1)	家族支援	SpO2が上昇する看護 (1)	清潔援助
血糖測定手技習得 (1)	パンフレットでの指導 (4)	ストーマ造設拒否 (1)	肺癌末期 (1)	家族の不安・苦痛	労作時SpO2低下 (1)	熱布清拭による倦怠感緩和
インスリン自己管理指導 (3)	活用度の高い指導媒体 (1)	ストーマの受け入れ (1)	転移性肝腫瘍 (1)	家族の精神的援助	口すぼめ呼吸 (1)	口腔ケア
反復練習 (1)	退院後の改善 (1)	ストーマセルフケア (1)	心不全末期 (1)	家族と寄り添う	呼吸苦, 呼吸困難 (2)	ホットパックの効果
自己管理, セルフケア (6)	手術 (3)	虫垂切除術 (1)	余命宣告, 告知 (2)	家族看護	効果的呼吸法 (1)	昼夜逆転の援助
自己管理の阻害要因 (2)	周手術期, 周手術期患者 (2)	骨折 (2)	告知を受けた患者 (1)	患者と家族に寄り添う	膝関節症 (1)	青年期患者
自己管理できない患者, 自己管理不足 (2)	術前後の心情変化 (1)	大腿骨頭部骨折 (3)	家族への告知の必要性 (1)	妻の協力	神経難病 (1)	青年期患者
コンプライアンスの悪い患者・治療自己中断 (2)	周手術期の不安 (1)	人工骨頭置換術 (2)	麻薬の副作用 (1)	家族との看護	ALS患者の心理 (1)	独身壮年期男性
病識の薄い患者 (1)	術前の不安 (2)	再骨折 (1)	苦痛, 身体的苦痛, スピリチュアルペイン (3)	患者と家族との関わり	パーチェット病 (1)	壮年期
病みの軌跡 (1)	手術患者の不安 (2)	歩行困難 (1)	疼痛 (1)	家族と行う看護	パーキンソン病 (1)	就労世代
患者の行動の意味 (1)	創痛への不安 (1)	血行不良となった乳房再建術	疼痛の増強因子, 疼痛閾値の上昇 (2)	信頼関係, 信頼関係の構築 (5)	全盲患者 (1)	就労継続
患者の理解度 (1)	術前の関わり (1)	心臓血管手術後	苦痛・疼痛の緩和, 患者・家族の苦痛緩和 (4)	個別性 (2)	突発性難聴 (1)	遠慮する患者
本人の意思, 意思の尊重, 主体性の尊重 (3)	術前呼吸訓練 (1)	ペースメーカー植え込み術	タクティールケアと疼痛 (1)	患者に合った看護, 患者中心の看護 (2)	アトピー性皮膚炎 (1)	知的障害患者
成人学習者の特徴 (1)	認知症患者への術前看護 (1)	ペースメーカー植え込み術	不安 (4)	自分らしさ, 本人らしい生活の再構築 (2)	皮膚統合性障害 (1)	自尊心の高い患者
認識の変化 (1)	全身麻酔 (1)	ボディイメージ変化 (3)	不安の強い患者 (1)	自己実現のあり方 (1)	皮膚症状 (1)	手洗い・うがいをしない患者
効果的自己管理, 自己管理促進因子 (9)	手術麻酔の不安 (2)	ボディイメージ変容の受容過程 (1)	恐怖心 (1)	同じ日線 (1)	褥瘡の看護	安全に療養できない患者
セルフモニタリング (1)	開胸手術 (1)	喪失体験 (1)	精神的援助 (1)	関係性 (1)	アルコール依存症	短期入院患者
行動変化・変容 (5)	術後 (4)	がん, 進行がん, がん患者 (4)	不安軽減 (1)	コミュニケーション (2)	腫部の創	入院による環境変化
成功体験, 自己効力感 (3)	術後患者 (1)	再発患者 (1)	フィングの危機理論 (5)	会話の重要性 (1)	認知症	短期間での患者理解
「できた」と感じる大切さ (1)	術後合併症 (1)	家族にがんを隠す患者 (1)	危機回避 (1)	非言語的コミュニケーション	BPSD軽減	入院による環境変化と心理変化
動機づけ (2)	術後呼吸器合併症 (1)	抗がん剤治療 (5)	障害受容のショック期 (1)	QOL, QOLを支える, QOL向上 (3)	悪性神経膠芽腫	受け持ち患者の暴言
健康管理意欲向上	術後疼痛ケア (1)	化学療法 (4)	衝撃の段階 (1)	闘病意欲低下	悪性リンパ腫	看護師の役割
教育指導 (1)	せん妄 (1)	化学療法の副作用 (1)	怒りの感情表出 (1)	レジリエンス低下	急変患者	看護学生にできること
看護的関わり	術後せん妄, せん妄リスク (2)	抗がん剤副作用 (1)	欲求表出 (1)	活動意欲低下	急性増悪	学生の立場
食生活改善の意識	術後せん妄予防・改善, 見当識改善 (3)	放射線療法 (1)	患者の思いの尊重 (1)	リハビリテーション	脳出血	

表4. 精神看護学における事例研究論文テーマのキーワード一覧表

長期入院(10)	多飲水(1)	隣に寄り添う(1)	コミュニケーション能力を引き出す(1)
統合失調症(44)	飲水コントロール(1)	意思の尊重(1)	現実的コミュニケーション(1)
陽性症状(1)	食事管理表(1)	その人らしさ(1)	外泊の意義
陰性症状(4)	おにぎりの工夫(1)	自己効力感の促し(2)	退院に向けての関わり
無為(3)	排便コントロール(1)	表情が穏やかになった過程(1)	退院支援
自閉(5)	転倒予防(1)	患者の変化(2)	退院につながる日常生活
幻覚(1)	環境作り(1)	意欲的行動の要因(1)	退院への思いと現状
幻聴(2)	更衣セルフケア能力の向上(1)	行動変容(3)	退院促進支援
妄想(2)	口腔ケア(1)	能動的行動(1)	退院への関わり
カブグラ症候群(1)	買い物指導(1)	行動拡大支援(2)	回復の看護
物とられ妄想(1)	セルフケア行動・援助・向上(3)	信頼関係(2)	パンフレット
活動意欲欠如・低下(3)	自主的行動(1)	対人交流(2)	暴力行為を行った患者の退院
自立度低下(1)	生活・身体・精神的側面(1)	関係の深度(1)	精神疾患患者
生活能力低下(1)	塗り絵(1)	ラポート(1)	精神科病棟
積極性に乏しい患者(1)	ジェスチャー(1)	他者との交流(1)	精神障害者
意思表示が乏しい(1)	作業療法(1)	看護学生の影響(1)	急性期患者
意思疎通困難(1)	季節カード作成(1)	患者-看護師関係(2)	発達障害
発語がない(1)	日記を用いたケア(1)	患者と学生の良い関係の要因(1)	広汎性発達障害
発語を促す看護	リハビリテーションプログラム(1)	看護学生-患者の相互的プロセス(1)	認知症併発
感情鈍麻, 感情表現が乏しい(2)	レクリエーション効果(2)	トラベルビーの人間対人間の看護(1)	患者像
感情変動(1)	グループ活動の効果(1)	看護師の関わり(1)	学生の関わり
病識獲得(1)	視覚的コミュニケーション(1)	会話(1)	自身の感情
融通が利かない患者(1)	インフォームドチョイス(1)	家族疎遠(1)	自分の葛藤
杓子定規な患者(1)	受容と共感の有用性, 共感, 受容(3)	家族の関わり促進に向けた看護(1)	援助者の心理的变化
拒否の強い患者(2)	安心できる入院(1)	声掛けのポイント(1)	学生の行動の振り返り
怠棄(1)	気持ちを引き出す, 感情の表出, 自己表現を促す(3)	患者との距離感(1)	戸惑いながらのケアがもたらした変化(1)
アドヒアランスの向上(1)	見えない感情	コミュニケーション(2)	
暴飲暴食(1)	意志表出を支えるケア(2)	コミュニケーションの工夫(1)	

表5. 小児看護学における事例研究論文テーマのキーワード一覧表

小児の特性 (1)	小児疾患 (1)	小児への影響 (1)	食発達支援 (1)
発達段階 (1)	先天性心疾患 (1)	言語獲得の遅れ (1)	基本的な生活習慣の獲得 (2)
成長 (1)	川崎病 (1)	学校生活不適応 (1)	信頼関係 (3)
患児 (6)	動脈瘤 (1)	社会背景 (1)	関係構築 (1)
女児 (1)	1型糖尿病 (1)	経過 (1)	子どもとの関わり (1)
入院患児 (3)	気管支喘息 (1)	不安 (5)	父親との関わり (1)
子ども (2)	アトピー性皮膚炎 (1)	不安軽減 (2)	人の存在が大切さ (1)
病気の子ども (1)	アレルギー性紫斑病 (1)	母親の不安 (1)	家族の負担 (1)
障害児 (1)	自閉症児 (1)	母子分離 (2)	コミュニケーション能力・方法 (3)
低体重児 (1)	感染性胃腸炎 (1)	親の介入がない (1)	主観的情報を得る (1)
乳幼児 (2)	アスペルガー症候群 (1)	家庭環境 (1)	時間の共有 (1)
1歳児 (2)	発達障害 (1)	孤独 (1)	前向きにとらえる (1)
幼児 (5)	精神疾患 (1)	寂しさ (1)	寄り添う (2)
幼児前期 (1)	神経性食思不振症 (1)	辛さ (1)	安心できる援助 (3)
幼児期後期 (2)	摂食障害 (1)	ストレス (1)	リラクゼーション効果 (1)
5歳児 (1)	体重増加不良 (2)	ストレス軽減 (3)	子どもの権利の尊重 (2)
学童 (5)	治療中 (1)	安静 (1)	成功体験, 自己効力感 (2)
12歳 (1)	苦痛な治療 (1)	啼泣 (2)	子どもの頑張りを引き出す (1)
外国人の母親 (1)	手術 (1)	倦怠感 (1)	自立促進ケア (1)
患児と母親 (2)	心臓カテーテル検査 (1)	遊び (5)	セルフケア自立 (1)
児と親 (1)	天蓋ベッド (1)	遊びの実際 (1)	プレバレーションの有効性 (3)
児と母親 (1)	制限 (1)	遊びの選択 (1)	処置を受ける覚悟 (1)
親子 (1)	入院生活, 療養生活 (4)	遊びを通じた関わり (1)	患児の変化 (2)
付き添う父親 (1)	養育環境 (1)	遊びの効果 (1)	看護の役割 (2)
家族 (1)	初めての入院 (1)	発達を促す遊び (1)	看護介入 (1)
両親以外の家族 (1)	長期入院 (4)	発達支援 (1)	小児看護 (2)
同室児童 (1)	小児病棟 (1)	学習支援 (1)	家族看護 (1)

表6. 母性看護学における事例研究論文テーマのキーワード一覧表

初産婦 (6)	不安 (2)	出産 (1)	自宅での継続
高齢初産婦 (2)	母乳育児の不安 (1)	夫立ち合い分娩 (1)	ドゥーラとしての関わり
分娩期 (2)	乳頭トラブル, 陥没乳頭 (2)	夫の変化 (1)	心理的サポート
褥婦 (4)	母児異室 (1)	授乳技術・指導 (5)	知識の獲得 (1)
外国人褥婦 (1)	低体重児 (1)	母乳・育児 (3)	看護の振り返り
産婦と家族 (1)	マタニティブルー (1)	母子相互作用, 愛着形成 (2)	
足浴の影響	精神障害 (1)		

表7. 基礎看護学における事例研究論文テーマのキーワード一覧表

清拭行為の自立(1)	口腔ケア(1)	下肢に疼痛(1)
清潔ケアの拒否(1)	排泄の自立(1)	活動意欲の変化(1)
拒否する患者にできること(1)	尿意への気づき(1)	

表8. 在宅看護学における事例研究論文テーマのキーワード一覧表

在宅療養(1)	身体障害(1)	生活自立(1)
一人暮らし(1)	精神的苦痛(1)	孤独感緩和(1)
	肺癌末期(1)	体位変換の検討(1)
	高齢者(2)	

Ⅵ. 考察

4年次の科目「看護研究(課題研究)」において提出された事例研究論文を看護学領域別にみると、過去6年間で最も多くの学生が取り組んだ領域は、高齢者看護学で約半数を占めていた。その高齢者看護学に関するテーマのキーワード(表2参照)では、圧倒的に『認知症』が多く、他に『脳梗塞』、『骨折』、『誤嚥性肺炎』などが抽出された。治療・看護として、『リハビリテーション』や食事・排泄などの『日常生活行動の自立』というワード目立ち、いずれも加齢に伴う健康問題として社会でクローズアップされているものが抽出されていた。また、対象の『残存機能』や『闘病意欲意欲を引き出す』関わり、『生きがいを支える』こと、『本人のペースを尊重する』など高齢者看護で大切となる質的要素が取り上げられていた。

成人看護学の事例研究には、29%の学生が取り組んでいた。表3からわかるように慢性疾患では生活習慣病である『糖尿病』について取り組んだものが多く、『セルフケア』能力を高めるために『自己効力感』を大切にした看護などについてまとめている。また、『がん』患者については、苦痛を伴う『抗がん剤治療』や骨髄抑制に伴う『感染予防』の看護などに取り組み、『終末期』を迎えた患者に対しては、患者をとらえる視点として『フィンクの危機理論』を活用しての分析や患者以外に『家族の苦痛の緩和』にも着目して『QOLの向上』をめざしていることがキーワードから伺えた。『周手術期』看護については、『不安』、『恐怖』などに着目し、『短期入院』の中で『不安軽減』のケアを行い、術後は『疼痛緩和』をはかりながら『合併症予防』に努めていた。そして成人期という『就労世代』の患者の社会復帰に向けた『退院指導』を工夫して実施したこともわかる。成人期にある患者個々の特徴・反応に対応した看護について深く学んでいることが伺える。但し、国試出題基準では幅広い成人看護学の知識獲得が要求されており、各自が臨地で学ぶことは限られた受け持ち患者の学びであるため、臨地での共有学習や学内授業での補完も求められる。

11%の学生が取り組んだ精神看護学の事例研究は、表4からわかるように圧倒的に『統合失調症』という疾患名がキーワードとして多く抽出されていた。成人領域の『短期入院』とは違い、『長期入院』が抽出されていることも精神看護学の特徴である。また、症状についても『陰性・陽性症状』、『幻聴』、『幻覚』、『妄想』、『無為自閉』、『意思疎通困難』、『多飲水』、『怠薬』など精神看護学ならではの特徴的な症状・状態が抽出されている。そのような患者に対して『見えない感情』をさぐり、『作業療法』や『セルフケア行動』を支援し、『自己表現』を促し、『患者の変化』を見守りながら、『患者-看護師関係』を分析していったことが伺えた。

小児看護学の事例研究には、過去6年間で7%の学生が取り組んでいた。表5からわかるように看護の対象者は、『乳児』から『学童』までの他『母親』『父親』『家族』『外国人の母親』などが抽出されている。また、発達段階の特徴として『入院生活』に伴う様々な『制限』、『苦痛な治療』、『手術』、『不安』、『寂しさ』、『啼泣』、『ストレス』などが『患児に与える影響』を分析し、『言語獲得の遅れ』、『学校生活不適応』などに対して『成長』や『安心できる援助』をめざして、『遊び』や『学習支援』に取り組んだことが抽出キーワードから読み取れた。

母性看護学の事例研究には、過去6年間で3%の学生が取り組んでいた。表6に挙げたように看護の対象者は、『初産婦』、『高齢初産婦』、『褥婦』、『外国人褥婦』、『産婦と家族』で、問題としては、『不安』、『母乳育児の不安』、『乳頭トラブル』、『低体重』、『精神障害』、『マタニティブルー』などが挙がっていた。学生は、『母子相互作用』や『愛着形成』など『心理的サポート』とともに『授乳指導』『母乳・育児への関わり』などを支援し、『自宅での継続』ができるように努力して関わっていたようである。

基礎看護学の事例研究には、過去6年間で1%の学生が取り組んでいた。表7に挙げたように、『清潔ケアの拒否』、『拒否する患者にできること』など悩んだことを分析したり、『清潔行為の自立』や『尿意への気づき』、『排泄の自立』など基礎実習ならではの自立に向けた生活援助への取り組みが抽出された。

在宅看護学の事例研究には、過去6年間で1%の学生が取り組んでいた。在宅看護学の事例研究の対象は、表8に挙げたように、『身体障害』、『在宅療養』、『一人暮らし』、『高齢者』など数は少ないが様々な事例に関わっており、『孤独感の緩和』や『生活自立』に向けた援助に取り組んでいる。

以上、看護学の領域別に見てきたが、看護学領域は違っても各領域内には、看護の価値に根差したキーワードが存在していた。学生・卒業生には是非この学びを将来の看護に生かして成長して欲しいと願う。

Ⅶ. まとめ

2014年度から2020年度までの2018年度を除く6年間の事例研究595論文を、7領域の看護学毎に区分して論文数を集計し、その後、各看護学領域におけるテーマのキーワードを整理した結や果は以下の通りである。

1. 4年次生が取り組んだ事例研究では、高齢者看護学が最も多く約半数を占めていた。次いで成人・精神・小児・母性・基礎・在宅看護学となっていた。
2. 各看護学領域別にテーマのキーワードを抽出し主な疾患・治療・症状・看護について知ることができた。ここで示した結果が、これからの事例研究の指導や看護教育の一助となれば幸いである。

Ⅷ. 引用・参考文献

- 1) 厚生労働省医政局指導課在宅医療推進室：在宅医療の現状と課題，厚生労働省ホームページ，<https://www.mhlw.go.jp/stf/shingi/2r9852000001jlr7-att/2r9852000001jluuv.pdf> (2021. 10. 31. 16:00アクセス)

2021年12月15日 受理
了徳寺大学研究紀要 第16号